

利用例

目的	内容	費用
社会貢献 [CSR]	農家の後継者不足や異常気象などにより離農が進み耕作放棄地（遊休農地）が急増している。管理されず荒れる放棄地を“ひまわり”などの景観緑肥で環境保護（農地再生）と景観保全（里山の環境）を行う。利用企業は経済的負担のみで作業は運営者であるふるさとファームが実施。社会貢献事業としての企業名入りの看板を掲げ、地域社会に対し広く周知する。	1,000 m ² 単位で 10万円のみ
福利厚生 [EB]	企業の従業員が、南区の豊かな自然の環境の中、野菜栽培の作業にたずさわって、獲れたての新鮮な野菜を食材とした昼食を作り食べるという“非日常”な体験により、日常業務におけるストレス等をリフレッシュできる活動として取り入れる。適応障害やうつ病など、心身の不調を和らげる機会として活用する。	栽培作物の決定や栽培手法などのアドバイス指導のもと、1,000 m ² 単位で約 30万円～50万円
人材開発 [HRD]	食となる野菜を生産するため、種をおとし、苗を作り、畑に植え、水をやり、間引きし、終始除草に励んだ上、収穫に至る作業からは人間形成上多くのことが学べる。また、けっして一人だけでは成し遂げることが出来ず、他者とのコミュニケーション、協調を大前提とする。自然豊かな環境の中、汗を流し、仲間と助け合いながら行う農園作業を基本的な人格形成の機会として活用する。	
ビジネス [Biz]	世界的に物価や燃料の高騰が常態化している。外食業や中食（惣菜等）業において、その食材、特に生鮮野菜を独自調達することは必要不可欠なことといっても過言ではない。しかし、それだけでなくも経営的に難しい農業に進出することは大きなリスクをとまなう。野菜栽培を本職とする運営者のアドバイスと指導のもと、野菜食材の自前生産を模索するための試験的な機会として活用する。	
社会的 ニーズ [SN]	高齢者、障がい者、子どもに関わらず、発達障害、ADHD、自閉症、アスペルガー、ひきこもり、その他社会的弱者等々、日常生活において社会的居場所に制限制約がある方々は多く存在する。豊かな自然環境の中、適度な肉体労働に励み気持ち良い汗をかき、基本中の基本である「生きることは食べること」のための“食”を担う、“生鮮野菜の生産”という尊厳ある仕事にたずさわれる、活躍出来る“居場所”として活用する。	福祉的な活用では、規模や内容に応じフレキシブルな費用設定